

山武市 農業構想

—概要版—

はじめに

1 目的

本構想は、山武市の基幹産業である農業のおおむね 20 年後の将来を見据え、山武市の農業の持続的な維持・発展に向けた目標を設定するとともに、その目標の実現に向けた方向性を示していきます。

2 位置づけ

本構想は、山武市総合計画に即するもので、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」などの関連計画と整合・調整を図っています。

3 計画期間

令和 7 年度を始期とし、令和 26 年度までの 20 年を計画期間とします。

計画期間中の農業を取り巻く環境や社会情勢を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

4 山武市の目指す農業の目標

時代の転換期を迎える中で、将来にわたり安定的かつ良好な形で農業を維持していくためには、農業所得の向上とともに、個々の農業者だけでなく多様な人々を巻き込んだ、農業を支える新たな仕組みを構築していく必要があります。山武市では、

“強い農業” “広がりのある農業” “みんなで支える農業”

を目標に、持続可能な農業の実現に向けた取組を進めていきます。

“強い農業”とは？

- 農畜産物の高品質・高付加価値化、低コスト化及び食品流通の効率化・合理化などの実現により、農業としての総合的な強さをもつこと
- 担い手の減少、気候変動、自然災害の激甚化・頻発化等の想定される変化に対し、柔軟に対応できるしなやかさをもつこと

“広がりのある農業”とは？

- サービス産業との連携、食品加工産業等の連携など、1次産業としての農業に留まらない“産業”としての広がりをもつこと
- 家族労働を中心とした農業経営から、法人化による農業経営、多様な地域の農業者による協力体制の構築など、“農業経営”としての広がりをもつこと
- 農業を本業とする人々に限らず、副業的に農業を営む人々、農業に興味・関心をもつ非農家の人々なども巻き込んだ、農業への“関わり方”としての広がりをもつこと

“みんなで支える農業”とは？

- 山武市民を中心に、農業とともに育まれてきた山武市の文化・風土・風景等への理解を通じ、農業者だけでなくみんなで農業を支えていこうという意識が浸透していること



山武市農業の現状、課題

1. 特徴

- 恵まれた立地・気候を生かして発展した県下有数の農業地帯
- 食生活に欠かせない農作物を“多種類生産”する首都圏の食料基地
- 良好な田園風景と盛んな観光・体験農業、伝えられる農業文化

図表1 千葉県における農業産出額上位の市町村（令和4年）

		農業産出額（千万円）				
		うち米		うち野菜		
		農業産出額	割合	農業産出額	割合	
1位	旭市	5,011	299	6%	1,589	32%
2位	香取市	2,933	512	17%	461	16%
3位	銚子市	2,122	44	2%	1,433	68%
4位	成田市	2,058	221	11%	332	16%
5位	八街市	1,669	7	0%	1,023	61%
6位	山武市	1,579	226	14%	796	50%
千葉県		36,388	4,723	13%	13,354	37%

出典：市町村別農業産出額（推計）

2. 近年の動向

（1）農業経営

- 農業経営体の数は減少傾向にあるものの、割合としては稼ぐ力の高い経営体が増加
- 農地の流動化は44%で、担い手への集約が進む
- 収益性の低さや経費の高騰などで農業所得は停滞傾向

（2）担い手

① 農家・経営体数等

- 小規模な個人経営体中心で、販売農家が多い
- 販売農家はこの15年で約4割減少

② 新たな担い手

- 新規就農者は横ばい傾向、就農希望者の属性や就農形態は多様化
- 農業法人件数は増加傾向
- 多様な主体が農業に関わる機会が増加

（3）農地

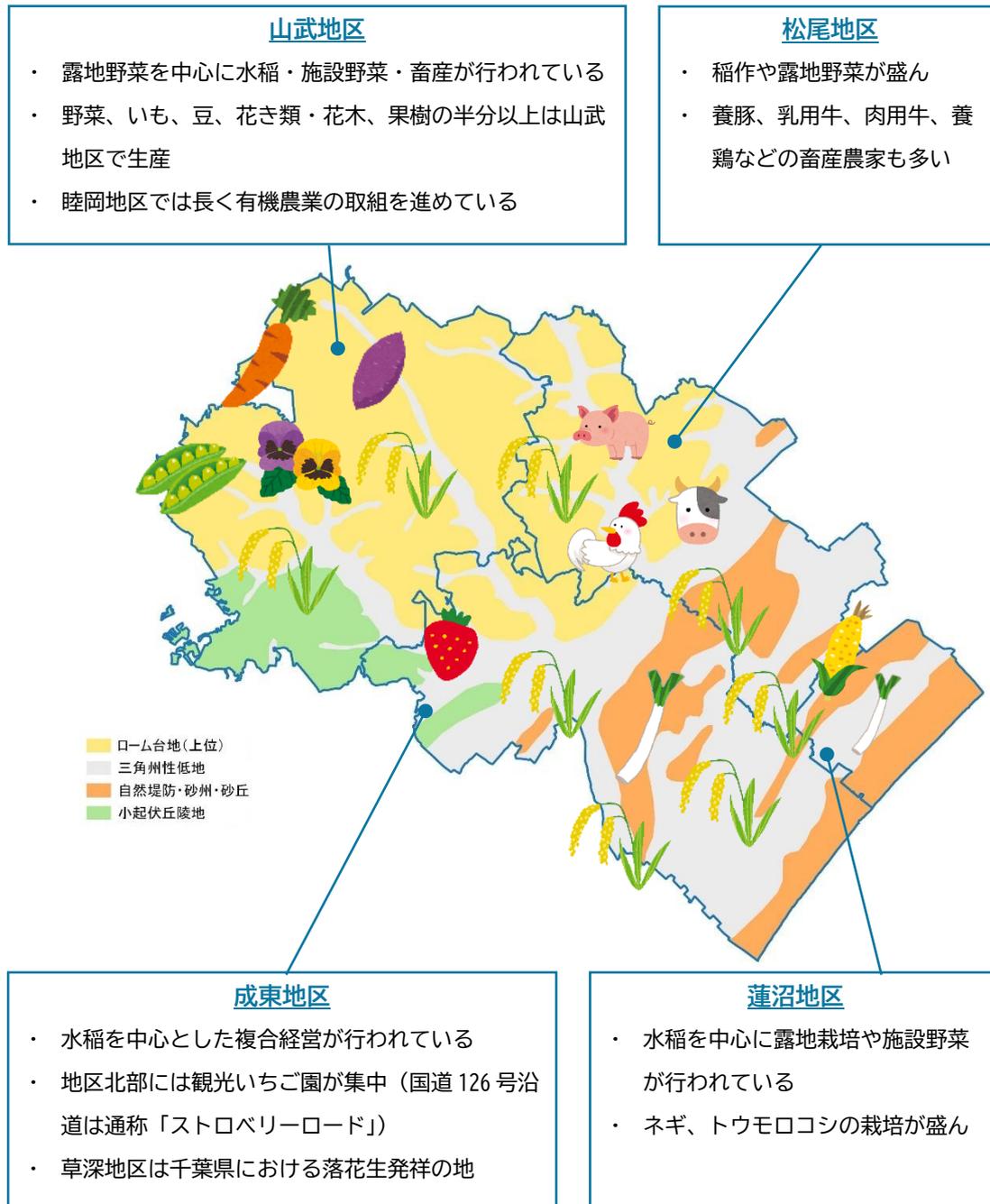
- 農地は市内全体に分布し、地形特性に応じて田や畑に利用
- 平野部では基盤整備が進む一方、丘陵部の畑は条件不利地が多い
- 農地の継続的な減少と不作付地の増加（特に畑地）
- 鳥獣被害の拡大

（4）その他

- ブランド化、環境に配慮した農業の展開 等

3. 地区別の状況

図表2 地形区分と地域別の主な農作物の分布



出典：[地形区分] 土地分類調査・水調査（国土交通省）

4. 山武市の農業の強み・弱み、可能性・脅威

(1) 強み

- 力強い個人経営体の存在
- 安定した生産力・品質
- 消費地、市場への近さ
- 生産物の多様性

(2) 弱み

- 統一的な対応の難しさ
- 競合先の多さによるブランディングの難しさ
- 基盤状況の悪さ
- 農業者と非農業者等との意識的な距離

(3) 可能性

- 食料生産基地としての潜在力
- 暮らしとの近さ（風景、食卓）
- 関連産業の資源としての潜在力
- 海、山などの自然環境の近さ

(4) 脅威

- 人口減少・高齢化や厳しい農業経営
- 気候変動や災害、鳥獣害等のリスクの増大

5. 課題

- 持続可能な農業の実現
- 急激な担い手の減少への対応
- 農地の荒廃化抑制と有効活用
- 主要産業としての農業生産力の維持
- 農業への多様な主体の巻き込み



出典：[左から1枚目、3枚目以外] 山武癒旅ホームページ（さんむ農泊推進協議会）

基本方針と実行施策

5つの基本方針と13の施策を掲げ、将来像の実現に向けた取組を進めます。

基本方針1：耕作放棄地に対する対策、農地の保全

農業生産環境の維持に加え、国土の保全や山武市の誇る田園景観の保全等のため、農業者等の農地利用を促し、農地の未利用・荒廃化対策に取り組むことによって農地の保全を図ります。

施策1-① 農地利用の推進

施策1-② 耕作放棄対策・荒廃抑制対策の推進

基本方針2：担い手の確保、育成と新規就農者への支援

山武市の農業の持続可能な維持・発展に向け、個人経営体中心の担い手構造を重視しつつも、企業経営体の参入や地域農業経営体の組織化、新規就農者をはじめとした多様な人材の確保を進めることで、担い手の数が減っても農業を持続できる体制を整えます。

施策2-① 持続可能性の高い農業経営体の確保

施策2-② 新規就農者への支援体制の確保

施策2-③ 多様な人材の参画

基本方針3：職業として魅力ある農業の確立（営農の効率化、収益性の向上）

担い手の確保に向けて、農業者が将来に希望を持って、職業として魅力ある農業の確立を進めるとともに、農業生産力の向上を図るため、営農の効率化や収益性の向上に向けた対策を推進します。

施策3-① 営農の効率化、省力化

施策3-② 収益性の向上

施策3-③ 鳥獣被害・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）被害対策

基本方針4：山武市の農業のブランド化とPR

山武市の農業の付加価値化に加え、農業者や市民、市、関係機関が山武市の農業に対して、その必要性や重要性を理解し、ひいては農業に対して誇りや関心を持てるようにするため、ブランド化や各種PRを行います。

施策4-① 産品別の方向性

施策4-② 山武市の農業の特徴づけ・ブランディング

施策4-③ 有機農業、環境保全型農業の推進

基本方針5：持続可能な農業への理解・協力

山武市の基幹産業である農業がこれからも持続できるよう、また、安心して営農できる環境づくりを市民の理解を得ながら推進します。

施策5-① 農業のやりやすいまちづくりの推進

施策5-② 関係人口に対する働きかけ

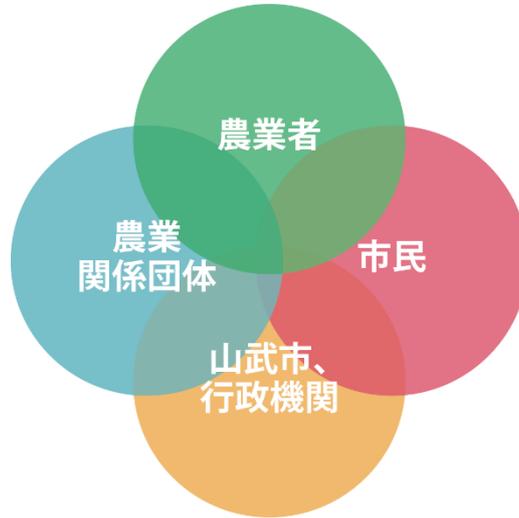
やるべきこと、目指すべきことの数値化、目標数値

基本方針	指標	現状値	目標値
		令和5(2023)年度	令和26(2044)年度
●耕作放棄地に対する対策、農地の保全	耕作放棄地面積、不作付地	17.5 ha	13.8 ha
	耕地面積	5,580 ha	5,507 ha
	農用地利用集積率	33.3%	60.0%
●担い手の確保、育成と新規就農者への支援	農業法人数 (農事組合法人及び株式会社)	33件 (令和2年度)	62件
	販売農家数	1,399戸 (令和2年度)	1,160戸
	農業従事者	3,348人 (令和2年度)	2,191人
	認定農業者数	356人	356人
●職業として魅力ある農業の確立(営農の効率化、収益性の向上)	農業所得(市全体)	60,400万円	126,400万円
	農業産出額	1,579,000万円 (令和4年度)	3,194,000万円
●山武市の農業のブランド化とPR	ふるさと納税の返礼品に農林水産物が選択された件数	2,076件	10,000件

構想実現に対する各主体の役割

本構想の実現に向けて、農業者・農業関係団体・市民・行政機関（国・県・市）がそれぞれの役割を果たすとともに連携しながら、主体的に取り組めます。

図表3 各主体の関係（イメージ）



—各主体の役割—

● 農業者

- ・ 質の良い農産物等の生産・供給
- ・ 創意・工夫による農業経営の持続
- ・ 農地の有効利用、適正管理
- ・ 新たな担い手の育成
- ・ 化学農薬、化学肥料の使用量低減による環境負荷の軽減
- ・ スマート農業の活用による作業時間の削減、農作業の効率化

● 市民

- ・ 農業への理解、関心を深める
- ・ 山武市の農産物の消費
- ・ 地域活動への参加

● 農業関係団体

- ・ 農業者への支援
- ・ 持続可能な農業への取組
- ・ 新規就農者の育成、支援
- ・ 農業者への技術的支援、情報提供
- ・ 気候変動等に即応した農業者への支援

● 山武市、行政機関

- ・ 農業者の要望、課題の把握
- ・ 農業振興につながる施策の実施
- ・ 農作業の効率化を図るための基盤・環境整備
- ・ 新規就農者、新たな担い手の確保
- ・ 農業者、農業関係団体との連携、情報共有
- ・ 農業に対する理解を深めるためのイベントの実施・参加

山武市農業構想 ー概要版ー

発行年月 : 令和7年3月

編集・発行 : 山武市産業振興部農政課農政係

〒289-1392 山武市殿台 296 番地

TEL : 0475-80-1211 FAX : 0475-82-2107

E-mail : nosei@city.sammu.lg.jp